

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年1月15日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873600472		
法人名	社会福祉法人 東湖園		
事業所名	高齢者グループホーム 百歳万歳	ユニット名	
所在地	〒311-1504 茨城県銚田市安房1665-2		
自己評価作成日	平成21年7月31日	評価結果 市町村受理日	平成22年1月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年9月24日	評価確定日	平成21年12月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>① 同一法人が運営する保育園との交流が数多くある。運動会や誕生会、納涼祭等を通じて、園児達とのふれあう機会がある。</p> <p>② 玄関前にプランター畑、駐車場にミニ畑を作り、入所者が作業しやすく工夫し、職員と共に野菜を作っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>サービス向上委員会、権利擁護委員会、美化委員会、防災委員会、給食委員会など数多くの委員会を設置し、職員が問題意識をもちながら日々の支援に努めている。</p> <p>できるだけ利用者の残存能力を維持し、生活に張りをもたせるため利用者にも放送や植木の手入れ係など役割分担を決めている。</p> <p>鯨職人をホームに呼び鯨バイキングを行ったり、ホーム独自の体操を日課に取り入れるなどで変化のある生活となるよう心がけ支援している。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関やスタッフルームに掲示することはもとより、カンファレンスや会議等で理念の意義を確認し、より具体的なケアの実践に取り組んでいる。	法人の理念をホームの理念とし利用者本位で支援しているが、独自の理念を作成するまでには至っていない。	全職員で話し合い地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念を作成することを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園、地元ボランティアの訪問を積極的に受け入れ、地域の交流を深めている。 特別養護老人ホームと合同で主催する納涼祭に地域の人々を招待している。	自治会に加入していないが地域の清掃活動に参加したり、中学生の職場体験を受け入れている。 保育園の運動会に招待されたり、特別養護老人ホームとの合同での納涼祭に地域の人々を招待するなど、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自ではないが、在宅介護支援センター主催の介護者教室への家族参加呼びかけ等協力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議にはかり、意見を求めたところ、今まで通り年3回の会議と必要時に開催し、利用者の状況等について話し合いをし、意見を求めている。	運営推進会議は市との話し合いの結果4ヶ月に1回開催することとし、市職員や民生委員、家族等の代表、法人理事等で話し合うとともに、必要に応じて臨時に開催している。 会議では行事や利用者の状況報告をするほか、そこで出た意見を職員で話し合い、サービスの質の向上に努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時や書類申請代行等の機会に話をする機会を持っている。	市担当者と介護保険の更新時や事務手続き代行時など、折に触れ意見交換をしたり疑問点などを相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を行い、外出して行きそうな利用者には1対1で対応し、散歩をしてくる等して、気分転換を図っている。	全職員が内部研修を受講し身体拘束の身体的、精神的弊害を理解し、玄関は日中も施錠することなく拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に基づき、利用者や家族からの不安や疑問（金銭面等）に対し、十分説明をし、納得を得て行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設け、自分で書ける方は書いて頂き、書けない方は口答で申し出て頂き、それについて利用者、家族、職員間で話し合い、より良い方法を考えている。	意見箱を設置するほか、家族等の面会時に必ず要望や意見等を聞き記録するとともに、意見等を全体会議で検討している。 苦情相談受付窓口を重要事項説明書に明記するとともに、出た意見等は苦情受付名簿に記録し苦情対策委員で話し合って改善に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、又は随時グループホーム会議を設けて意見を聞いている。	管理者は月1回の全体会議で職員の意見や要望を聞き、意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価表を用いて自己評価して、その後管理職が再評価している。 又、外部研修に出来るだけ参加してもらっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の年間計画で研修を行っている。 又、毎日の申し送り、日常業務の中で助言、指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県内のグループホーム協議会開催の研修に出席。県社会福祉施設協議会の施設長会議で他グループホーム管理者との意見交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に実態調査の為、訪問し、本人の訴えを聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に実態調査の為、訪問し、家族からの訴えを聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況にあった施設か、居宅か、本人・家族・施設職員とよく話し合い、見極めをし、ケースによっては法人内の在宅介護支援センターと相談することもある。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と食事をしたり、洗濯物をたたんだり、畑で野菜作りを一緒にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等には家族に連絡し、参加して頂いて、食事等を共にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話をかけたり、手紙を書いたりして、継続出来るよう支援している。	職員は利用者を取り巻く社会や人間関係を大切に考え、友人に手紙を出したり電話をかけるなど、関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の出来る役割（放送、洗濯物たたみ、新聞取り等）をしてもらい、お互いに認め合えるような関係を築けるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も面会などをし、関係を継続している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的にケアチェック表を利用してモニタリングし、希望・要望を把握している。	職員は利用者の日々の行動や表情などから、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。 利用者の意向にそって一週間のサービス計画を作成している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活について実態調査資料を基に個々の趣味や以前の経験を暮らしの中に活かし、その人の力を発揮してもらえるようにしている。 (洗濯たたみ、華道等)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	随時、モニタリング、カンファレンスをし、状況を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所者、家族の要望を把握してこれによってアセスメントを行い、介護計画を立てている。	介護計画は利用者や家族等、医師、職員などの意見を参考に計画作成担当者がアセスメントを行い作成するほか、3ヶ月に1回モニタリングを実施し現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた記録を見直しながらモニタリングを行い、計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物の要望や事務の代行（振り込み等）を随時行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方や、保育園児達に来て頂いたり、保育園の行事にも参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族の希望が優先であり、協力病院と連絡を密にして、気軽に相談している。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を支援している。 法人母体の病院が隣接しているため、24時間緊急時に対応可能な体制となっている。 利用者は年に1回定期健康診断とインフルエンザの予防接種をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム長が兼務をし、夜間緊急時の相談対応が出来る。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	隣接地にかかりつけ病院がある為、入院時は毎日面会に行っている。又、隣接しているので早期退院による通院治療も可能である。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師との連携を密にして体制は整っているが、現在対象者はいない。	利用者の希望により利用契約時に特別養護老人ホームの申し込みをしたり、重度化した場合の対応を説明している。 看取りは状況の変化に伴い段階的に説明し、利用者や家族等の意向を確認するとともに、チームで方針を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成すると共に研修会を設けている。また、看護師の配置、緊急時における連絡網の掲示、母体法人の病院が隣接しているなど、緊急時に対応できる体制となっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消火訓練、避難訓練を実施している。	消防署指導のもと年2回総合訓練を実施するほか、自主訓練や定期的に設備点検を行っているが、地域の人々の協力を得て避難訓練を実施するまでには至っていない。 食糧や飲料水などを備蓄するまでには至っていない。	自治会や運営推進会議を通して地域住民の協力が得られるよう働きかけ、協力体制を築くことを期待する。 災害に備え食糧や飲料水などを備蓄することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入所者の生活歴や生活を十分に把握し、常に感謝の言葉や優しい言葉かけをしている。	管理者は利用者の尊厳を第一に考え、ホームだよりの写真や居室の表札、制作物の掲示などについて利用時に家族等に説明し同意を得ている。 利用者の個人情報に関する書類は事務室で一元的に管理し、情報の漏洩防止に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は入所者の希望を大切にケアを心がけており、食べたい物を選んだ食事作り、野菜作り、収穫、習字、カラオケ、手芸など入所者の希望を取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者のペースに合わせて、ゆったりとした雰囲気の中でトイレ、食事や散歩、買い物を見守りながら一人ひとり、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所者は好みの服を買いに行ったり、着たり、アクセサリーをつけたりしている。美容院も本人好みの所へ行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食べて頂く為に本人好みの箸、食器等を使用している。座る位置も定着している。テーブル拭きや食器の片付け等も共に行っている。	利用者は能力を活かしながら、ホームで採れた豆の筋取りやテーブル拭きなどを担っている。 寿司を食べたいとの希望を聞き、ホームに鮎職人を呼び握ってもらうなど、食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入所者一人ひとりの食事や水分摂取状況を把握し、チェック表に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きや義歯の手入れ、うがいなどは、自分で出来る方は行って頂き、出来ない方は支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄パターンを知り、自立に向けて支援している。 介助が必要な方は定期的に誘導している。	居室にトイレがあり利用者一人ひとり居室で対応し、定期的な誘導と排泄に時間をかけ自立に向けた支援をしている。 パット等を使用する時は必ず袋に入れ、他の人にわからないよう羞恥心に配慮した対応を心がけている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事をはじめとして、野菜を多く取り入れた献立を立てて調理している。又、一日2回体を動かす為に体操を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入所者の希望に応じて、毎日か1日おきに実施し、ゆったりと入浴出来るように支援している。シャワーベンチ用マット等も本人好みの物を個別で使用している。	少なくとも1日おきに利用者の健康状態に応じ午前か午後の決まった時間に入浴支援をするとともに、希望に応じて好きな時間にゆっくり入浴することもできる。 個別にシャワーベンチ用マットを使用したり、菖蒲湯を楽しむなど柔軟な対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外出やレクリエーションなどを通して入所者が夜間眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬の飲み方や副作用等の説明書の確認し、症状の変化の早期発見に努めている。薬の服用によって変化がある場合には医師、看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事やおやつ時の放送、洗濯物たたみ、新聞取り、園芸等入所者一人ひとりの役割や楽しみごとに応じた支援を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入所者一人ひとりの体調に合わせて外出できるように支援している。 (買い物、ドライブ、地域の催し物への参加) 又、家族の協力を得て、面会時等外出している。	敷地内の散歩やテラスでの外気浴を楽しんだり、月に1度の行事による外出や月に2度買い物日を設定し、利用者の希望にそって外出支援をしている。	外出回数を減少させないために地域のボランティアや認知症サポーターを導入するなど、地域資源を活用して外出支援に取り組むことを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る人は小遣いの範囲内で自己管理してもらっている。その他は個別に支援している。出納は家族に定期的に書面で報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があった時は、電話をかけたり、手紙のやり取りが継続できるようにしている。家族からの手紙や電話を歓迎している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と職員が共に作成した作品をホーム内の随所に飾ってぬくもりを表現している。	玄関にテーブルとソファ、和室に座卓や座椅子、ベッドなどを設置し、利用者の身体的状況や利用者同士の関係に配慮した安らげる空間づくりをしている。 共用空間のいたる所に数多くの鉢植えや花が置かれ、季節感がただよって落ち着いた雰囲気になっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファのコーナー、畳コーナー等共用空間にそれぞれ工夫があり、利用者が思い思いの場所で過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人、家族の要望を取り入れて、それぞれ装飾品、大正琴やラジオなど持ち込み、落ち着いた生活を送っている。	利用者の生活歴や趣味を大切に、大正琴や箏箏、テレビ、ラジオなど利用者が安心して暮らせる物品が持ち込まれている。 壁に家族等の写真やホームで作った掛軸などを飾り、独自性のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必ず視線がいくので、名前を居室のドアノブへ表示し、認知度により室内の家具等にも表示している。しみや汚れが出来ないように環境整備に努めている。（幻覚の錯誤防止）		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない

64	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)</p>	<p>1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない</p>
65	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)</p>	<p>1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない</p>
66	<p>職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)</p>	<p>○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>
67	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	<p>1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>
68	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	<p>1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 高齢者グループホーム 百歳万歳

作成日 平成 22年 1 月 6 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	消防署指導のもと年2回総合訓練を実施するほか、自主訓練や定期的に設備点検を行っているが、地域の人々の協力を得て避難訓練を実施するまでには至っていない。食糧や飲料水などを備蓄するまでには至っていない。	自治会や運営推進委員会を通して地域住民の協力が得られるよう働きかけ協力体制を築く。 災害に備え食糧や飲料水などを備蓄する。	地域の消防団（安房分団）の方々の協力を得て、避難訓練を行う予定。飲料水、乾パン、缶詰等を備蓄として購入し、職員全員が分かるようにしておく。	1年
2	18	敷地内の散歩やテラスの外気浴を楽しんだり、月に一度の行事や月に二度の買い物日を設定し、利用者の希望に添って外出支援をしている。	外出回数を減少させないために地域のボランティアや認知症サポーターを導入すると、地域資源を活用して外出支援に取り組む。	地域包括支援センター、社会福祉協議会に問い合わせし、協力を得る。	1年
3	1	法人の理念をホームの理念とし、利用者本位で支援をしているが、独自の理念を作成するまでには至っていない。	全職員で話し合い地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念を作成する。	グループホーム会議に全職員が参加し検討した結果「和顔愛護」（和やかな顔、親愛の気持ちがかもった言葉）を独自の理念とした。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。